



## 短縮計画の

## 検証を継続

有識者会議作業部会

【東京支社】国際リニアコライダー(ILC)の計画見直しを巡り、文部科学省の有識者会議が再設置した素粒子原子核物理作業部会(座長・中野貴志大阪大核物理研究センター長)の第2回会合は5日、同省で開かれた。

委員12人が出席。ILCの初期整備延長の短縮計画について、東京大素粒子物理国際研究センターの浅井祥仁教授は高エネルギー物理学の国内研究者組織で検証作業を行ったと説明。「ヒッグス粒子の精密検証で十分な成果が期待でき、(将来的に規模を)拡張できる点も長所だ」と語った。

欧州合同原子核研究所(CERN、スイス)との関係について「円形加速器(での研究)と互いに知識を交換することで研究の質が上がる」と述べた。

ドイツの研究所、ドイツ電子シンクロトロン(DESY)のゲオルグ・ヴァイグレン主任研究員もILCと円形加速器による研究との相乗効果を強調した。

委員からは加速器研究の中でのILC計画の優先順位や、中国の加速器計画に関するドイツでの受け止めなどについて質問が出た。

次回会合は3月を予定。中野座長は「意見を踏まえ、次回は要点を整理して議論を深めたい」と語った。